

6月2日(日)じばさん三重6階にて開催された講演会を取材しました。講師の辛辣だけどユーモアにあふれた語り口と本質を突いた内容にはっとさせられる事ばかりでした。

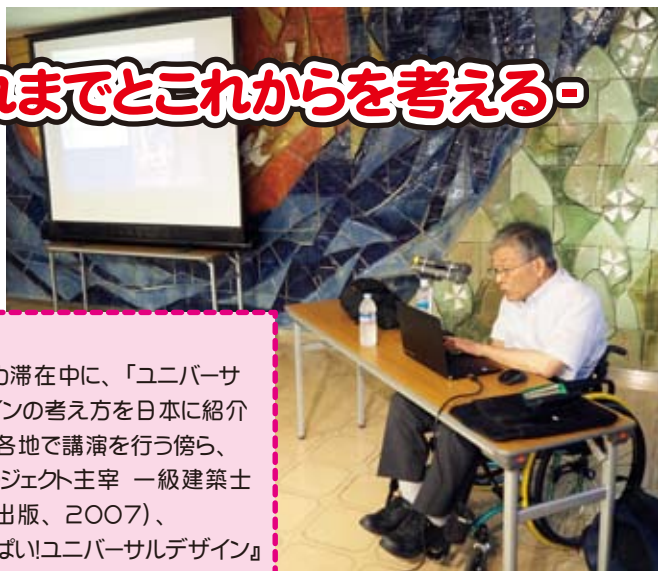
ユニバーサルデザインセミナー 2019@四日市

「使える」まちをめざして - これまでとこれからを考える -

日本のユニバーサルデザインの第1人者

講師：川内美彦氏

主催：NPO法人UDほっとねっと



かわうち よしこさんプロフィール

広島県出身。19歳の時、事故により車いすの生活になる。1990年アメリカ滞在中に、「ユニバーサルデザイン」の提唱者、ロナルド・メイス氏と出会い、ユニバーサルデザインの考え方を日本に紹介した。2019年3月東洋大学人間環境デザイン学科教授を退職。現在は各地で講演を行う傍ら、自治体のプロジェクトに参加。UDほっとねっとの会員でもある。アクセスポジション主宰 一級建築士工学博士。著書に『ユニバーサルデザインの仕組みをつくる』(学芸出版、2007)、『バリア・フル・ニッポン』(現代書館、1996)『発見!体験!工夫がいっぱい!ユニバーサルデザイン』(学研プラス 2017年) など。

車イス生活になって46年になります。

36歳の時アメリカに行く機会があり、1年間いたんですが、ちょうどADA(障害のあるアメリカ人に関する法律)という日本にも大きな影響を与えた法律が成立した時期だったんですね。

ADA(1990年制定)

障害があることで他の人と異なる扱いを受けるのは「差別」だと明記。障害のある人に階段の代わりにスロープを付ける等アクセスを提供することは、差別をなくすために社会全体として取り組まなければならないことなので、整備は義務。

日本には詳細が伝わっていなかったの、日本に戻りアメリカから人を招いて全国講演ツアーを開始しました。

当時ですから、新幹線には乗れましたけど、ホテルは泊まれる所はほぼないし、バスは乗れないし、だっこっちも意地ですから、声がかかれば北海道から石垣島まで全国を行きました。まあ、そのおかげで川内という者がいるんだというんな人に知ってもらいました。

40歳(1993年)で上京。半年かけてアパート探し、新宿線のみが全駅にエスカレーターがあった。当時は駅員が4人くらいで車イスを担いでいたんですね。駅員が揃うまで何時間も待たされる。社会生活が成り立たない。時々あやまって落ちる事故もある。駅員もひざ痛、ぎっくり腰になる。

しかし、幸い私が東京に来た90年代にはさまざまな上下移動手段が登場しました。台車の下にキャタピラがついていて、1段1段上り下りをする「チェアメイト」(転落事故の報告あり)、「エスカル」は階段の横にレールを付けておいて籠を付けて、車イスを取り付けて上り下りする。転落の心配なし。



「チェアメイト」

この機械の発想は物を運ぶ輸送機器と同じ。感情のある人間を乗せるという発想ではない。転落は怖いし皆に

ジロジロ見られるはで快適ではない。

「エスカル」ラッシュ時になると必ず場内放送「車いすをご案内中です。ご迷惑をおかけします。」

私たちは迷惑か！これ聞いたら、車いす=迷惑と思いますよね。やっぱりジロジロ見られて快適ではない。

「車いす対応エスカレーター」普段は、ふつうのエスカレーター。車いす使用者が利用する場合は、一般客の利用を止めて専用にする。人に犠牲を強いるバリアフリー。しかも、エスカレーターには小さい車いすしか乗れない。講演するためにアメリカから来た友人の車いすなんかは大きくて乗れない。小さい車いすに乗り換えさせられる。飛行機でもお客さん用とは反対の

出入口から、フォークリフトでお弁当なんかと一緒に乗るわけです。ホテルに着いたら着いたで、バリアフリーの部屋がない、あれば友人に譲り、私は普通の部屋に。



先進国と言いつつ、経済大国と言いつつ、こんなアクセスしか提供しない日本への怒りがわきました。自分たちは社会の付け足しか？なぜ行く先々で不愉快